

おくのほそ道『大垣』確認テスト（結びの地） | 定期テスト対策 | 誰でも古典塾

解答・解説

問1 敦賀（つるが）。／大垣の直前の章段で芭蕉が滞在していた、越前の敦賀の港を指す。露通はこの港まで芭蕉を出迎えに来て、そこから美濃の国（大垣）へ同道した。直後に「美濃の国へと伴ふ」とあるとおり、これから美濃へ向かう前の港なので、大垣（美濃国内）ではない点に注意。

問2 助動詞＝「らる」。意味（用法）＝受身。「（馬の力に）たすけられて」と、馬に助けられる側として述べているので受身。

問3 使役の助動詞「す」。「とばす」は「飛ぶ」＋使役「す」で、馬を走らせる意。

問4 長く苦しい旅を終えて再び親しい人々に会えた喜びを、まるで死んだ人が生き返って再会したかのようだ、と表している。それほど人々が芭蕉との再会を喜び、いたわったということ。

問5 「一方では……し、また一方では……する」という意味。悦ぶ気持ちといたわる気持ちが同時に並び立つことを表す。

問6 旅の疲れ（旅のつらさ・けだるさ）もまだおさまらないのに。「物うさ」＝けだるさ・つらさ。「やまざる」＝やまない。

問7 連体形。下の「に」（接続助詞、逆接）に続くため連体形。

問8 ウ 十月ごろ。「長月」は陰暦九月で、現在の暦ではおよそ十月にあたる（晩秋）。

問9 意志。「（伊勢の遷宮を）拝もう」という芭蕉の意志を表す。

問10 伊勢神宮の式年遷宮を拝むため。旅の疲れも癒えないうちに、新たな目的地である伊勢へ向けて舟で出発した。

問11 二見（ふたみ／二見浦）。伊勢の二見浦は蛤の名所として知られ、句の「ふたみ」に重ねられている。

問12 「二見（ふたみ）」＝伊勢の地名「二見（浦）」。「蓋身（ふたみ）」＝蛤の「蓋（ふた）」と「身（み）」。蛤のふたと身が離れることに、二見へ旅立つことをかけている。

問13 「別れ」＝人々との別れ。「（貝が二つに）分かれ」＝蛤の蓋と身が分かれること。両者がかけられている。

問14 越人も馬を走らせて（急いでやって来て）。「とばせて」は馬を勢いよく走らせる意。

問15 再読文字。「未（いまだ……ず）」にあたる、漢文訓読由来の言い方である。

問16 季語＝「行く秋」。季節＝秋（晩秋・暮秋）。過ぎゆく秋を惜しむ気持ちがこめられている。

問17 蛤のふたと身が分かれるように、別れがたい人々と別れて、私は二見へと旅立っていく。ちょうど秋も過ぎ去ろうとしている、この別れの時よ。

問18 係助詞「ぞ」。詠嘆（強意）を表し、過ぎゆく秋と別れへの感慨を強調している。（係り結びとして文末を強める働き。）

問19 作者＝松尾芭蕉。ジャンル＝俳諧紀行（紀行文）。

問20 河合曾良（曾良）。旅の大半に同行した門人である。

問21 エ 江戸時代。元禄期（一六八九年の旅をもとに成立）の作品。

問22 イ 江戸（深川）。芭蕉は江戸深川を旅立ち、東北・北陸を経て大垣で旅を結んだ。大垣・二見はいずれも旅の終わり側、平泉は旅の途中の地である。